墜落・落下事故撲滅!!
日本ステージ安全衛生向上委員会
2016.11月号 No.166
SAFETY News

11月9日は「119番の日」

11月9日は「119番の日」です。皆さんは緊急事態に直面した時とっさに、119番通報することができますか？

近年、救急車の出動件数・搬送人数はともに増えてきているようで、救急隊の現場到着までの時間も平均8.3分と遅くなっています。救急車は限りある資源です。救急車を安心してみんなで利用することができるよう、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困ったときなどに、活用できる、「救急車を呼ぶべき症状」と「救急車を呼ぶ時の5つのポイント」をご紹介します。参考にしてみてください。

1. 救急車を呼ぶときの番号は「119番」

もし呼ぶかどうかの判断に困ったら、お住まいの市町村に救急相談窓口があります。「#7119」で救急相談窓口があります。

ご存知ですか？ #7119

(携帯電話・PHS・プッシュ回線)

応急手当の方法、近隣の救急病院の案内、救急車を呼んだ方がいいのかどうかなど、救急に関する緊急性の低い事柄に対応する部署を設置しています。「救急相談センター」「救急安心センター」など部署名は地域により異なりますが365日、24時間対応してくれます。

2. 救急車が到着するまでの時間の応急処置が命を救う

応急手当が必要な場合、消防本部から指示されます。
大切な人を救うために、普段から正しい応急処置を身につけておきましょう。

3. 応急手当をする以外にも人手を集めよう

応急手当をしている人以外の人は、救急車が来そうなところまで案内に出ると、到着が早くなります。

4. 救急車を呼んだら、こんなものを用意しておこう

診察券や保険証・お金・靴・普段飲んでいる薬

5. 救急車が到着したら伝えてほしいこと

- 事故や具合が悪くなった状況
- 行った応急処置内容
- かかりつけ医
- 救急隊員が到着するまでの状態の変化
- 持病や具合の悪い情報
- 普段飲んでいる薬

自然災害の多かった2016年…

今年も残すところあと2ヶ月となりました。思い返せば今年1年、本当に自然災害が多い年だったように思います。

2月の鹿児島県桜島の噴火。4月の熊本県地震。6月の北海道地震。梅雨前線がもたらした記録的な大雨。8月後半～10月前半までに上陸した大型台風。10月の熊本県阿蘇山の噴火。そして、10月22日に発生した鳥取県中部地震。こんなにもたくさんの自然災害が発生し、日本に被害を与えているのが現実です。世間では、これから益々自然災害が増えていくと噂されています。

自然災害に逆らうことはできませんが、自分の身は自分で守る『防災』をもっと身につける必要があります。年末になり、慌ただしくなってきますが、その前に、今一度『防災・安全』について考えてみてください。

編集広報担当　大阪技術部：木村/西野　デザイン課：神行　製作部：北嶋